

ディアナ号の錨(いかり)

富士市三四軒屋・沼津市戸田

1. 概要

江戸末期の嘉永7（1854）年10月15日、ロシアのプチャーチン提督は軍艦ディアナ号に乗って、国境策定と通商を求めて下田に来航した。ところが、安政東海地震（嘉永7（1854）年11月4日）の津波で大破してしまい、幕府の厚意により戸田港で修理を行うこととなった。ディアナ号は戸田港に向かって出航したが、途中、折からの強風で奥駿河湾に流され、そこで沈没してしまった。

その後、宮島の漁民に助け出されたロシア人達は戸田へ向かうことになり、一方下田では日露和親条約へ向けた調整が行われた。日露和親条約締結後、戸田港にて新造されたヘダ号にてロシア人達はロシアへ帰国することになる。

海底に眠る錨（いかり）は、魚網に多くの被害を与え、地元の漁民に「唐人の根（ねっこ）」と呼ばれるようになる。その後、昭和29年田子浦の漁民に引き上げられた錨は、戸田村（当時）の強い要望により寄贈され、現在、沼津市戸田の造船郷土資料博物館前に展示されている。さらに沖合いに沈んでいたもう一つの錨は田子浦漁協の手により昭和51年に引き上げられ、富士市三四軒屋の緑道公園（通称”錨公園”）に、プチャーチン提督像と共に展示されている。



[富士市三四軒屋の緑道公園に展示されているディアナ号の錨]

2. 観察のポイントなど



全長 53.33m、
全幅 14.02m、喫水
12.19m という巨大
な船に見合うだけの
巨大な錨である。プチ
ャーチン提督とディ
アナ号の足跡につい
ては、沼津市戸田造船
郷土資料博物館に詳
しく展示されている。

[沼津市戸田造船郷土資料博物館に展示されている錨]

嘉永7（1854）年	10月15日	ディアナ号、下田港に入港
	11月 4日	安政東海地震津波により被災
	11月26日	戸田港に向けて出航
安政元（1854）年	12月 2日	奥駿河湾で沈没
	12月 6日	救出されたロシア人達が宮島村から戸田 へ向けて出発
	12月 7日	ロシア人一行、戸田村へ到着
	12月21日	日露和親条約締結
	12月24日	戸田で西洋型船舶建造開始
安政2（1855）年	3月10日	ヘダ号進水
	3月22日	ロシア人一行帰国

3. アクセス

(1) 富士市緑道公園

富士駅から車で約15分。新富士駅から車で約10分。

新富士駅バス停「宮島」から三四軒屋行きで「三四軒屋団地入口」
降りて徒歩約1分。

(2) 沼津市戸田造船郷土資料博物館

沼津駅から車で約1時間。

伊豆箱根鉄道修善寺駅から東海バス戸田行きで約50分、終点で東海バス土肥
行きに乗り換えて3分、「御浜口」下車、徒歩10分。